

- * 「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。『だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。』(ヨハネ7:37~38) 仮庵の祭が最高潮になる最後の日、神殿には多くの人が集まっていた。祭りの期間、シロアムの池から黄金のひしゃくで水を汲み、神殿の祭壇に納める儀式が行われていた。このような背景で、イエスは「私のもとに来て飲みなさい」と言われた。
- * 「渴いている人」とは、「すべて疲れている人、重荷を負っている人はわたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ11:28)と言われたように、自分の力ではどうしても抜け出せない状況にある人のことであろう。そして、本当は渴いているはずなのに、気が付いていない人のことをも指している。この世のことに心を奪われている人たちである。私かもしれない。魂が渴いている人はイエスのところに来て飲む、すなわち、イエスを信じるならば、「生ける水の川が流れる」ようになる、と言われる。
- * 「これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったのも、御霊はまだ注がれていなかったからである。」(ヨハネ7:39) イエスを信じる者には御霊が与えられ、その御霊がいつまでもその人の中におられ、止めどなく流れる川のように、生きて働いてくださるというのである。「イエスが栄光を受ける」とは十字架の死のことであり、その時はまだ来ていなかった。
- * イエスのことばを聞いた人たちはイエスこそメシヤ(=キリスト)だという人と、ガリラヤからそんな人が出るはずがないと否定し、敵対する人に分かれた。国会議員やパリサイ人はだれもイエスのことを信じていない、とパリサイ人は言ったが、そんな中でも、以前イエスのところに夜こっそりと訪れたニコデモという議員はイエスを弁護した。そして、段々とイエスを信じるようになり、イエスの死のとき、没薬や香料を持ってきて自らイエスのからだを丁重に葬る作業に加わった。彼はすでにイエスの弟子になっていて「生ける水の川が流れる」約束を得ていた。私たちの心の奥底の渴きをいやしてくださる聖霊の神に感謝し、信頼して歩んで行きたい。